

感謝を胸にプロ野球での活躍誓う！

第103回全国高等学校野球選手権大会でチームを準優勝に導き、2021年プロ野球ドラフト会議で阪神タイガースから4位指名された、津市出身で智辯学園高校3年生の前川右京選手。今回の市長対談では、前川選手を地元の白塚市民センターに迎え、子どもの頃や甲子園での話、そしてプロ野球選手として歩み始める意気込みなどを伺いました。

市長 ドラフト会議当日はどこで迎えられましたか。

前川 智辯学園の一室で、監督、部長と3人で待機し、指名後、隣に設けていただいた会見場へ移動しました。

市長 前評判が高く、指名は確実という予測でしたね。

前川 不安な気持ちもたくさんある中で指名していただいたので、とてもうれしかったです。

市長 プロに進み、高校野球とはいろいろな違いがあると思います。例えばバットは金属から木製に変わりますよね。

前川 木製は芯で打たないとボールが飛ばないので、ヘッドを走らせコンパクトに打つという形が理想です。そして、力だけでなく体の回転の中でボー

ルを捉えるように意識して練習しています。

市長 すでにプロ野球選手としての準備に入っていますが、小学生の時はソフトボール、中学生の時は硬式野球でそれぞれチームを全国大会へ導く活躍をされました。小学1年生からソフトボールを始められたきっかけを教えてください。

前川 チームの団長さんが兄を誘ってくださったときに、自分の方が先に参加を希望したことが始まりです。

市長 ここ白塚市民センターのグラウンドで練習されていたのですよね。

前川 小さい頃から練習してきたグラウンドなのでとても大事な場所です。楽しい一心で、ずっとボールを追いかけていたことを懐かしく感じます。

市長 中学生になり硬式野球の津ボーイズに入りました。ソフトボールから野球に変わっていかがでしたか。プロへの意識はこの時からあったのでしょうか。

うか。

前川 まだ全然なかったです(笑)。塁間など何に関しても距離が長くなったりと、ボールの硬さや大きさも違ったりして、少し感覚が違うなと思いました。スムーズに移れたと思います。

市長 そして高校進学。お兄さんの夏輝さんは津田学園、右京さんは奈良県の強豪・智辯学園に進みます。

前川 兄と同じ津田学園という選択肢もありましたが、兄がいるから甘えが出るかなという思いもあり、挑戦するんだという気持ちで智辯学園に入学させていただきました。

市長 チャレンジする強い気持ちの一方で、寮生活などへ不安はありませんでしたか。

前川 ありましたが、それ以上に野球をさせていただく環境がとても優れている、中途半端なことはできないという気持ちでした。良い指導者さん、グラウンド、寮生活、全てにおいて整っ



白塚バッファローズの選手たちと

1年目から
自分のプレーを
頑張りますよ！

智辯学園高校3年生

前川 右京さん

MAEGAWA UKYO

2003年津市生まれ。白塚小学校1年生のときに白塚バッファローズでソフトボールを始め、一身田中学校入学後、硬式野球チームの津ボーイズでプレー。智辯学園高校では1年生の春からレギュラーに定着した。高校通算37本塁打、2021年高校生No.1スラッガーとも評された。

